

令和 6 年 6 月 1 日現在

機関番号：12102

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2019～2023

課題番号：19K00932

研究課題名(和文) 20世紀の亡命ロシア人社会と「移動させられたアーカイブズ」に関する研究

研究課題名(英文) Russian emigre society in 20th c. and "the displaced archives"

研究代表者

パールィシェフ エドワルド (Baryshev, Eduard)

筑波大学・図書館情報メディア系・准教授

研究者番号：00581125

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：記録の移動という現象に焦点を合わせ、「在外ロシア」のアーカイバル遺産の蓄積過程とその特徴を検討し、「移動させられたアーカイブズ」という概念は国民的自意識とそれに関わる国民国家観によって左右されていることを再確認した。また、「在外ロシア」の歴史記録の保存過程には制度的・観念的・社会政治的な変容があり、それは諸資料群の分割・再統合を決定づけたことを解明した。国民的自意識の形成に大きく貢献した「在外ロシア」のアーカイバル遺産の研究を通して、「国民的アーカイブズ」及び「ディアスポラ・アーカイブズ」の存在意義を考察し、「記録・アーカイブズの移動や離散」という現象を考えるための論理的な枠組みを準備した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「在外ロシア」の記録遺産を事例にして、歴史記録の「移動」という現象を検討し、記録の「分散」と「再集合」の仕組みや社会的な意義について理解を深めた。本研究は「国民的アーカイブズ」及び「ディアスポラ・アーカイブズ」のもつ意義を際立たせ、国民国家論を超える在外ロシアのアーカイブズの特異性を明示した。「機関アーカイブズ」(institutional archives)が着目されやすい今日、典型的な「収集アーカイブズ」(collecting archives)である在外ロシアの諸機関の構想・活動は収集・保存への姿勢の重要性を物語り、今後のあるべきアーカイブズの在り方への大きなヒントを与えている。

研究成果の概要(英文)：Focusing on the phenomenon of records migration, the accumulation process and the characteristics of the archival heritage of "Russia Abroad" have been examined. As a result, it was affirmed that the concept of "the displaced archives" has been greatly shaped by national self-consciousness and the associated notion of the nation-state. It was also clarified that the process of preserving historical records of "Russia Abroad" has undergone institutional, ideological, and socio-political transformations that determined the division and reintegration of the archival fonds. Through this study, it was established also that the archival heritage of "Russia Abroad" has greatly contributed to the formation of Russian national self-consciousness. A basic logical framework for analyzing "national archives" and "diaspora archives," and for considering the phenomenon of migration and dispersion of records and archives has been worked out.

研究分野：アーカイブズ学

キーワード：arcvhal Rossica 移動させられたアーカイブズ 記録遺産 ナショナル・アイデンティティ RZIA Hoover Institution 記録の移動・離散・再集合

## 1. 研究開始当初の背景

グローバル化しつつある今日の世界では人々、物資、資源の移動などで象徴されるような国民国家を越境する諸問題が次第に重要性を増しているという認識を出発点にして、避難民などの「強制移住」と同様に、こうした「強いられた移住」の結果として生まれる歴史記録(アーカイブズ)の統制されない移動という国際社会が無視しえない問題に着目する必要性を痛感した。これらの記録は世界各地で散逸されながらも、移民や移住者のアイデンティティ存続において重要な役割を果たしている民族的・集団的な記憶が刻み込まれている。

この問題は、いわゆる displaced archives (「移動させられたアーカイブズ」、以下は DA) をテーマにする研究で事例研究などの形で検討されてきたが、情報の量的な蓄積および質的な分析という意味でいまだ厚みが不足していると考えた。すなわち、戦争などの結果、戦利品のひとつとして没収され、戦勝国へ移動させられたアーカイブズは典型的な事例として扱われているが、DA 関連の諸問題のなかで法的な手段によって特に解決されにくいとみなされるのは、内戦と政権交代によって移動させられたアーカイブズである。これを考慮して、ロシア革命という政変で生じた DA は複雑なケースとして綿密な検討に値すると考えた。一方で、「在外ロシア」のアーカイブズに関する研究はロシア国内で相当の蓄積があるにもかかわらず、DA という概念を通して検討されたことがないため、本研究ではこうした二つの研究領域をつなぎ合わせ、「在外ロシア」のアーカイバルな遺産を対象にして、DA の類型化とこの概念の更なる開発を目指すことにした。

## 2. 研究の目的

広い社会科学の立場に立って、「在外ロシア」(Russia Abroad) の膨大なアーカイバル遺産はいかなる理由で、いかなる環境の中で、いかなる制度的な仕組みのおかげで蓄積・保存されてきたかを明らかにする。また、より具体的に言えば、各国に散逸されている亡命ロシア人社会のアーカイブズのなかに含まれている DA は、いかなる政治的・法的・社会的なステータスに置かれてきたか、それをめぐって関係者の間でいかなる取り組みがなされたかを明確化する。そうすることによって、アーカイブズ学的に DA の特質を定め、その類型化を試み、このような歴史記録の管理・利用に当たって留意すべき諸点を確認する。また、ディアスポラ(異郷で暮らしているある民族的な集団の人びと)とそのアイデンティティの存続という観点から、アーカイブズが演じている役割を再検討して、こうした文化的・情動的な遺産の共有を可能にする体制づくりの諸問題について考察する。この研究プロジェクトを通して、国際問題にもなっていないながら、アーキビストの対応が迫られている DA を捉える分析的な枠組みの構築を試みる。

## 3. 研究の方法

当初は、いくつかの世界最大級の代表的な亡命ロシア人関連コレクションを具体的な事例として取り上げる予定であった。すなわち、スタンフォード大学フーバー研究所図書館・文書館(Hoover Institution Library & Archives, HILA)、チェコスロヴァキアのプラハで存在したロシア在外歴史文書館(Russian Historical Archive Abroad in Prague, RZIA)、コロンビア大学バフメティフ文書館(Bakhmeteff Archive of Russian and East European Culture)という三者の文書館を軸にして調査を進め、亡命ロシア人関連の DA が置かれてきた環境とそれに関わる諸問題を検討する計画であった。特に、RZIA は第二次世界大戦終戦直後、ソ連に引き渡され、その機関自体の独自のアーカイブはモスクワとプラハの間で分割されたものの、歴史研究者は現在、それを利用するので、資料の受入プロセスやその諸条件を細かく検討できるとの見通しであった。

この研究の一環で、海外の文書館所蔵コレクションを集中的に検討したうえで、「在外ロシア」のアーカイブズの量的かつ質的な構成と分布、現存する DA コレクションの受入プロセス、DA 関連の法的・倫理的な問題を解明する予定であった。しかし、2020 年初めに起きたコロナウィルス感染症拡大のため、海外での資料調査は不可能になったため、研究計画を大幅に考え直さざるを得なかった。すなわち、新しく成立した状況のなかでの研究の可能な展開の方法と形態を考慮して、第一に、研究対象を RZIA に絞り、遠隔な方法でプラハのチェコ国立図書館附属スラヴ図書館に所蔵される RZIA の歴史的な事務記録を徹底的に収集し、歴史記録の収集・受入過程の分析を通して、「在外ロシア」の記録遺産を象徴するアーカイバル資料群の形成過程を検討することにした。それを踏まえて、第二に、RZIA をはじめとする「在外ロシア」の記録遺産を代表する収蔵機関の特色を解明することにした。第三に、歴史記録の移動という現象に焦点を合わせ、DA を考えるための、より広範な理論的な枠組みを模索することにした。

## 4. 研究成果

研究プロジェクトの初年度において、米国の HIA や BACU およびロシア連邦国立文書館(State

Archives of the Russian Federation, 以下は GARF ) 内の RZIA 資料群に所蔵される資料コレクション、その形成過程やコレクション上の関係性を調査し、現場での集中的な資料収集を計画していたが、2020 年初めに起きたコロナウィルス感染症拡大の結果、それを中止せざるをえなかった。コロナウィルス感染症の収束がみられないなか、同年度から「新しいノーマル」に相応しい研究方法を模索し、研究構想と研究計画をそれに適応させようとした。具体的には、研究の更なる概念化を図りながら、「亡命ロシア人とアーカイブズ」というテーマの解明に寄与しうる事例の選定を行い、一次資料や文献収集の道を探っていた。

本研究プロジェクトの主たる成果は以下のとおりである：

第一に、DA 概念の多様性・多面性を考慮して、ロシアのアーカイブズ管理体制の歴史の変容に着目し、「ロシア連邦のアーカイブズ管理体制とその特色」と題する論文を刊行できた(『レコード・マネジメント』第 82 号、2022 年 3 月)。それは、アーカイブズという記録遺産の捉え方において、国内外に暮らすロシア人の間では多くの共通点がみられ、このなかでは「国家アーカイバル・ファンド」という概念が特に大きな意味を有していたことを証明している。すなわち、RZIA や亡命ロシア人の知識人が思い描いた「国民的アーカイバル遺産」という構想とソビエトロシアで完成された「国家アーカイバル・ファンド」との間には大きな類似性と相互補完性がみられたわけである。また、この研究の結果、ロシア内外で歴史的にみられた DA の概念も以上のような構想によって大きく左右されてきたことを解明できた。

第二に、BACU、HIA および RZIA という三つの文書館の関係性に着目するなか、それらをまたぐ記録群の生成と分割の過程やその内的構造の徹底的な分析を行い、三者の位置や活動の特徴を解明しようとした。まず、「在外ロシア」のアーカイブズを象徴する記録群のひとつとしてロシア駐日陸軍武官アーカイブを選定し、それをテーマにした学術論文 (The Puzzles and Secrets of Archival Rossica Abroad: How the Archive of the Russian Military Attaché in Japan (1906–1925) Was Saved) を仕上げ、Slavic & East European Information Resources という米国の学術雑誌に米国の学術雑誌に投稿した (2022 年 8 月に掲載)。この論文は「在外ロシア」の「アーカイバル遺産」の救済・保存にみられる内外的な背景、そのメカニズムと断層性をよく物語っている。すなわち、流動性の高い亡命ロシア人社会の生活のなかで、ひとつの集大成として生まれた記録群は一定量ずつ「アーカイブ化」され、当時、最も相応しいと思われた収蔵機関に移管されていた。収蔵機関の数が限られたほか、RZIA のような短命な機関もあり、ロシアと亡命ロシア人社会をめぐる状況が素早く変化しつつあったので、多くの記録群はいくつかの文書館の間で分割されてしまった。

第三に、本研究の一環で、1920～1930 年代という戦間期における RZIA の活動に焦点を当て、「亡命ロシアとアーカイブズ」というテーマで研究を活発化させた。特に、海外調査を実施できない状況であったにもかかわらず、RZIA の活動を物語る貴重な一次資料を集中的に入手でき、その整理・解読を行えたことは、研究計画上において重要な進展であった。RZIA の管理体制を実証的に検討する取り組みとして、アレクサンドル・コルチャーク提督 (1874～1920 年) の死後、1926～1927 年に RZIA に移管された彼の「日記」がたどった運命を綿密に分析し、海外の学術雑誌に論文を投稿した (現在、査読中である)。この論考のなかで、具体的な事例を通して、RZIA の体制の下では記録収集がいかに行われ、記録の選別・鑑定に臨んでその所有権や著作権に関わる諸問題がいかに解決されていたかを分析したとともに、RZIA に関する評価は「在外ロシア人」の間にいかに浸透して確立したかを解明した。これは RZIA の記録管理体制を総合的かつ実証的に論じるための更なる一歩であると考えられる。

以上のように、この研究プロジェクトの一環で、記録の移動という現象に焦点を合わせ、「在外ロシア」の「アーカイバル遺産」の形成過程とその特徴を検討し、DA という概念は国民的アイデンティティとそれに関わる国民国家観によって影響されるものであることを再確認した。また、「在外ロシア」のもつロシア歴史記録が保存される過程を吟味した結果、それには制度的・観念的・社会政治的な変容があり、それは諸資料群の分割・再統合につながったことも明らかとなった。事実上「避難民」であった亡命ロシア人のもつ記録遺産はいばらの多い避難の運命をたどりながらも、「在外ロシア」の新しい国民的なアイデンティティの形成に大きく貢献したほか、最終的にロシア国内社会の自意識にも大きな影響を与えた。在外ロシアの歴史記録が保存された諸施設 (特に RZIA) の事例を通して、「国民的アーカイブズ」および「ディアスポラ・アーカイブズ」の存在意義を考察し、「記録・アーカイブズの移動や離散」という現象を考えるための論理的な枠組みを準備した。この諸事情に関わる問題をアーカイブズ学的に議論し、文書化することは、これから取り組むべき課題であると確信している。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計4件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 Baryshev Eduard	4. 巻 23
2. 論文標題 The Puzzles and Secrets of Archival Rossica Abroad: How the Archive of the Russian Military Attache in Japan (1906-1925) Was Saved	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 Slavic & East European Information Resources	6. 最初と最後の頁 287 ~ 316
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.1080/15228886.2022.2105189	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 パールィシェフ、エドワルド；村田光司；白井哲哉	4. 巻 第36号
2. 論文標題 (書評) 大阪大学アーカイブズ編『アーカイブズとアーキビスト 記録を守り伝える担い手たち』	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 アーカイブズ学研究	6. 最初と最後の頁 77 ~ 85
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 パールィシェフ エドワルド	4. 巻 82
2. 論文標題 ロシア連邦のアーカイブズ管理体制とその特色	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 レコード・マネジメント	6. 最初と最後の頁 3-19
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.20704/rmsj.82.0_3	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 パールィシェフ、エドワルド	4. 巻 103
2. 論文標題 反ボリシェヴィキ諸政権の内戦闘争と日本の軍事的な支援 (1918 ~ 1922年)	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 ロシア史研究	6. 最初と最後の頁 46-75
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------